

# 168 オリーブ山での説教(4)



マタイによる福音書 24 : 15~28、マルコ 13 : 14~23、ルカ 21 : 20~24

.....前回に続き、ニサンの月の12日(火曜日)の出来事である.....

<1>マタイによる福音書 24 : 9~14→大苦難(患難)時代の前半[3年半] (ファイル No.167)

<2>マタイによる福音書 24 : 15~28→大苦難(患難)時代の後半[3年半]

大きな苦難を予告する(マタイによる福音書 24 : 15~28)

15「**預言者ダニエルの言った憎むべき破壊者**(→反キリスト)が、(神の宮の) **聖なる場所**(→聖所)に立つのを見たら——読者は悟れ(→ダニエル書をよく読み、預言から学びなさい)——、

→(リビング・バイブル)ですから、預言者ダニエルが語った、あの恐るべきもの(ダニエル 9 : 27、11 : 31)が聖所に立つのを見たなら〔読者よ、この意味をよく考えなさい〕、

→憎むべき破壊者(回復訳: 荒らす忌むべき者)=反キリスト=黙示録 9 : 11「アバドン」:ヘブライ語、「アポリオン」:ギリシア語=「破壊者」

→ダニエルの預言①~②に言及している(マタイ:ダニエル書をよく読み、預言から学びなさい)。

これは終わりの日に起こる反キリストによる大患難のことを預言しているが、この出来事の原型が「神殿奉献記念祭」の背景にある。

### ①ダニエル書 9 : 27

彼は一週の間、多くの者と(→②「すべての者」ではない)と同盟を固め(→これが大苦難[患難]時代に入る一歩となった) / 半週でいけにえと献げ物を廃止する。憎むべきものの翼の上に荒廃をもたらすものが座す。そしてついに、定められた破滅が荒廃の上に注がれる。

→①反キリストはイスラエルと7年間(一週の間)の平和条約を締結する。

②3年半が経過した時点で、彼は条約を一方向的に破棄する。

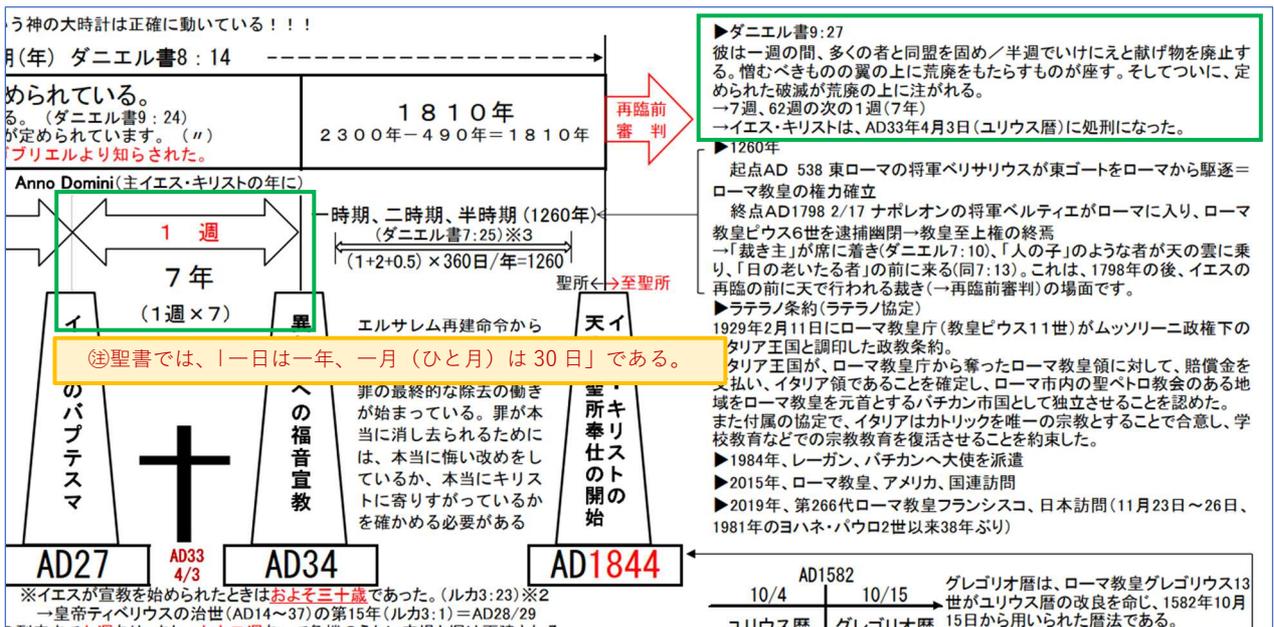
ただ、「いけにえと献げ物を廃止する」という聖句から分かるように、この時は、神殿(第三神殿)が建っていなければならない。従って、この聖句はまだ来ていない預言である。

③反キリストは自らを神だと宣言し、礼拝をしない者を殺してしまう。

→テサロニケの信徒への手紙二 2 : 4

この者は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して、傲慢にふるまい、ついには、神殿に座り込み、自分こそは神であると宣言するのです。

④反キリストは最後に滅ぼされる(下図参照[ファイル名]ダニエル書 9 : 24~9 : 27 についての一部)。



## ②ダニエル書 11 : 31

彼（アンティオコス 4 世エピファネス）は（ユダヤを監視、迫害するためにセレウコス朝から）軍隊（→この時期、セレウコス朝はギリシア系軍人が不足しており、兵士の多くは地方から集められたシリア人であり、シリア人が崇拝していた「天の主（バアル・シャメーン）」※<sub>1</sub>はゼウス神であった）を派遣して、**皆すなわち聖所を汚し、日ごとの供え物（→口語訳：常供〈じょうく〉の燔祭＝ターミード、常燔祭、ユダヤ共同体が神との契約に留まるための日毎の朝夕に絶やさずささげる燔祭）を廃止し、憎むべき荒廃をもたらすもの（口語訳：荒らす憎むべきもの）を立てる（→シリア人の宗教祭儀の場としてユダヤの神殿が用いられ、フェニキア人の礼拝する神、「天の主〈バアル・シャメーン〉」の礼拝を行った〈マカバイ記一 1 : 11～15、54〉）。**

**【参考】 神殿奉献記念祭**（宮きよめの祭り、宮清めの祭り、ハヌカ祭、ハヌカーの祭り、光の祭り）

そのころ、エルサレムで神殿奉献記念祭が行われた。冬であった（ヨハネによる福音書 10 : 22）。

聖書中「神殿奉献記念祭」の記述は、ヨハネによる福音書 10 : 22 のみで、ハヌカーはヘブライ語で「奉献、献納」という意味である。

→ダニエル書 12 : 11～12 に「日ごとの供え物が廃止され、憎むべき荒廃をもたらすものが立てられてから、千二百九十日が定められている。待ち望んで千三百三十五日に至る者は、まことに幸いである。」※<sub>1</sub>と記されている。この預言は歴史的事実を背景にするもので、セレウコス朝シリアの統治者アンティオコス 4 世・エピファネス※<sub>2</sub>が、BC167 年キスレーヴの月の 15 日に、ギリシア神ゼウスの祭壇を神殿に設置したことを指している。しかし、この祭壇は、BC164 年キスレーヴの月の 25 日に、ユダヤ人マカベア一族のユダス＝マカバイオス（ユダ＝マカベウス、マカベウスのユダ）により取り除かれ、神殿は再奉献された。この出来事は「ハヌカー」「宮きよめ」と呼ばれ、今でも神殿祭として祝われている。

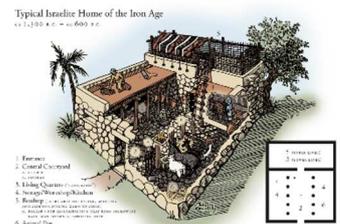
※<sub>1</sub> : 数字は、アンティオコス 4 世エピファネスによる迫害が続く間、あるいは将来のある時期を指す。

※<sub>2</sub> : アンティオコス 4 世エピファネス（BC215/212 年?～BC164/163 年?）は、BC 2 世紀のセレウコス朝（BC312 年～BC63 年頃）シリアの王（在位：BC175 年～BC163 年）。プトレマイオス朝を圧倒したことでユダヤを支配下に治めたが、やがてマカバイ戦争（BC167 年に勃発したセレウコス朝に対するユダヤ人の反乱とそれに続く戦争）を引き起こした。

16 **そのとき、ユダヤにいる人々は山（→複数形 the mountains）に逃げなさい。**

17 **屋上にいる者は、（持ち物に固執して）家にある物を取り出そうとして下に降りてはならない。**

→イエス時代の家屋の屋根は平ら（陸屋根）で、屋外には屋上（屋根）に上がるためのはしごや階段が外にあった（出典（図）：<http://guildofbezalel.blogspot.com>）。



18 **畑にいる者は、（持ち物に固執して）上着を取りに帰ってはならない。**

19 **それらの日には、身重の女と乳飲み子を持つ女は不幸だ。**

20 **逃げるのが冬や安息日にならないように、祈りなさい。**

→ユダヤの冬は寒く、旅が困難であったし、安息日は 1 km 以上の移動はすべきでないとされていた。

21 **そのときには、世界の初めから今までなく、今後も決してないほどの大きな苦難が来るからである。**

→大きな苦難（大患難）は、この時代の最後の三年半（360 日/年×3.5 年＝1260 日）に起こります。

22 **神がその期間を縮めてくださらなければ、だれ一人救われぬ。しかし、神は選ばれた人たち（→神の選んだ民、ユダヤ人）のために、その期間を縮めてくださるであろう。**

23 **そのとき、『見よ、ここにメシアがいる』『いや、ここだ』と言う者がいても、信じてはならない。**

→メシア（メシアス：ギリシア語）はヘブライ語で「マシアハ」で「選ばれた者」「油注がれた者」とい

う意味である。

24 **偽メシア**や**偽預言者**が現れて、(神からのものではない) **大きなしるしや不思議な業を行い、できれば** (→できることなら)、**選ばれた人たちをも惑わそうとするからである。**

→偽メシア (反キリスト) は、滅びる者たちを欺くために、サタンの力をもって、**徹や偽りの不思議**を行ないます(II テサロニケ 2 : 3、9~10)。

→ <b>悪</b> の三位一体	┌	サタン	⇔ 父なる神
		偽メシア (偽キリスト)	⇔ 子なる神イエス・キリスト
		偽預言者	⇔ 聖霊

25 **あなたがたには前もって言うておく。**

26 **だから、人が『見よ、メシアは荒れ野にいる』**と言っても、**行ってはならない。また、『見よ、奥の部屋にいる』**と言っても、**信じてはならない。**

27 **稲妻が東から西へひらめき渡るように** (→突然、見逃すことのないよう形で)、**人の子** (→イエス・キリスト) **も** (再び) **来るからである。**

28 **死体のある所には、はげ鷹 (聖書協会共同訳：秃鷹) が集まるものだ。」**

→死体：山地に隠れているイスラエルの民

→死体のある場所＝旧約聖書に登場する「ボツラ」Bozrah＝ヨルダンの「ペトラ」Petra

→はげ鷹：異邦人 (反キリスト) の軍勢

→はげ鷹 (ハゲタカ、秃鷹) は、鳥類のハゲワシ類またはコンドル類の俗称で、生物学上ハゲタカという鳥は存在しない。

はげ鷹は、動物などの死体に瞬時に群がり死体の肉を餌にする。故に、何か悪い事が起こればすぐに知れ渡り、詮索好きの人が群がって来て眺めるということを表している。しかし、はげ鷹は鷲の意味もあり、イコール、ローマ軍を示しているとも考えられる。

→ルカによる福音書 17 : 37 (はげ鷹を含む聖句はマタイ 24 : 28 とルカ 17 : 37 の二か所のみである)

そこで弟子たちが、「主よ、それはどこで起こるのですか」と言った。イエスは言われた。「死体のある所には、はげ鷹 (聖書協会共同訳：秃鷹) も集まるものだ。」



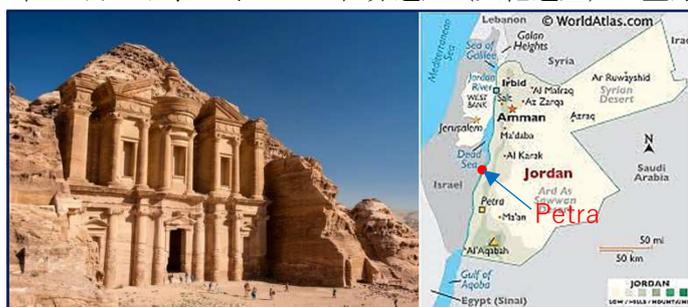
### 【参考】ペトラ遺跡

ヨルダンにある遺跡で、死海とアカバ湾の間にある渓谷にある。死海から約 80km 南に位置する。またペトラとは、ギリシア語で「崖」を意味する。1985 年 12 月 6 日、ユネスコの世界遺産 (文化遺産) に登録された。

2 000 年以上前にこの地に定住したアラブ人の一族ナバテア人は、切り立つ岩壁を削り、この大都市を造った。ナバテア人は、BC3 世紀頃に突然現れた遊牧民族で、ナバテアとは「水を掘る人」を意味するアラム語である。

降雨量の少ない砂漠地帯に水槽の技術を持ち、平和を志向した。

戦いの場においても、敵を砂漠に誘い込み、困窮した相手に水の提供を申し出て、休戦へと持ち込んだ。ペトラはかつて、商業や交通の要地として栄え、古代東方文化とヘレニズム文化との融合が見られる建造物や彫刻が多く存在している。

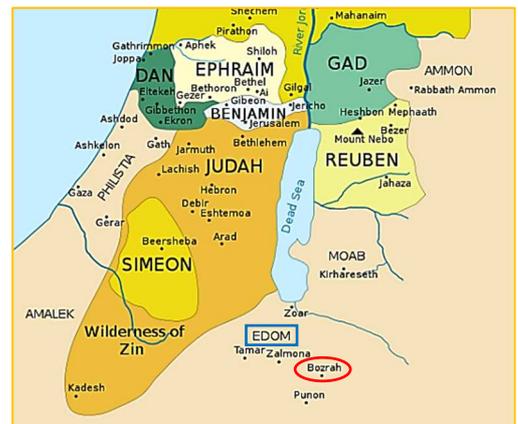


また、聖書に登場する「ボツラ Bozrah」とはエドムの主要都市で、ギリシア語は「ペトラ」です。

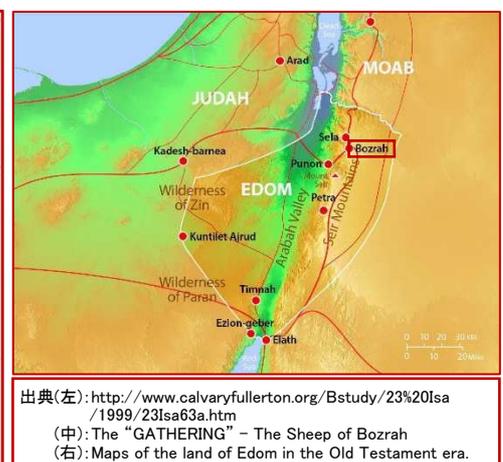
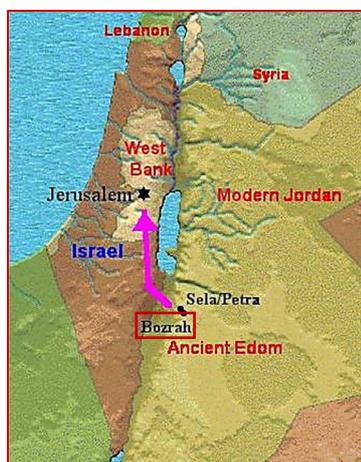
タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 8 / 聖句等の総数 33250 <ボツラ>8個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: ボツラ]
K 創世記	36:33 ベラが死んで、代わりに王となったのは、ボツラ出身でゼラの息子ヨバブである。	
K 歴代誌上	1:44 ベラが死んで、代わって王となったのは、ボツラ出身でゼラの息子ヨバブである。	
K イザヤ書	34:6 まことに、主の剣は血にまみれ／脂肪を滴らす。小羊と雄山羊の血にまみれ／雄羊の腎臓の脂肪を滴らす。主がボツラでいけにえを屠り／エドムの地で大いなる殺戮をなさるからだ。	
K イザヤ書	63:1「エドムから来るのは誰か。ボツラから赤い衣をまとって来るのは。その装いは威光に輝き／勢い余って身を倒しているのは。」 「わたしは勝利を告げ／大いなる救いをもたらすもの。」	
K エレミヤ書	48:24 ケリヨト、ボツラなど、モアブの地の町々を、遠くの町も近くの町も、すべて襲う。	
K エレミヤ書	49:13 わたしは自分自身にかけて誓う、と主は言われる。ボツラは、廃墟となり、恐怖、恥辱、ののしりの的となる。その町々は皆、とこしえの廃墟となる。」	
K エレミヤ書	49:22 見よ、敵は鷲のように舞い上がり、速く飛んで来て、ボツラに向かって翼を広げる。その日には、エドムの勇士の心は、子を産む女の心のおののく。	
K アモス書	1:12 わたしはテマンに火を放つ。火はボツラの城郭をなめ尽くす。	

ミカ書 2 : 12～13 復興の預言→文語訳では「ボツラの羊」  
**新共同訳** ヤコブよ、わたしはお前たちすべてを集め／イスラエルの残りの者を呼び寄せる。わたしは彼らを羊のように囲いの中に／群れのように、牧場に導いてひとつにする。彼らは人々と共にざわめく。打ち破る者が、彼らに先立って上ると／他の者も打ち破って、門を通り、外に出る。彼らの王が彼らに先立って進み／主がその先頭に立たれる。

**文語訳** ヤコブよ我かならず汝をことごとく集へ 必ずイスラエルの遺餘者を聚めん 而して我之を同一に置いてボツラの羊のごとく成しめん 彼らは人数衆きによりて牧場の中なる群のごとくにその聲をたてん。打破者かれらに先だちて登彼ら遂に門を打敗り之を通りて出ゆかん 彼らの王その前にたちて進みエホバその首に立たまふべし。



【参考】ボツラ Bozrah



出典(左): <http://www.calvaryfullerton.org/Bstudy/23%20Isa/1999/23Isa63a.htm>  
 (中): The "GATHERING" - The Sheep of Bozrah  
 (右): Maps of the land of Edom in the Old Testament era.

【参考】聖書では、「一日は一年、一月(ひと月)は30日」である

K	民数記	14:34 あの土地を偵察した四十日という日数に応じて、 <u>一日を一年とする</u> 四十年間、お前たちの罪を負わねばならない。お前たちは、わたしに抵抗するとどうなるかを知るであろう。
K	民数記	20:29 共同体全体はアロンが息を引き取ったのを悟り、イスラエルの全家は三十日の間、アロンを悼んで泣いた。
K	申命記	34:8 イスラエルの人々はモアブの平野で三十日の間、モーセを悼んで泣き、モーセのために喪に服して、その期間は終わった。
K	エステル記	4:11 「この国の役人と国民のだれもがよく知っているとおり、王宮の内庭におられる王に、召し出されずに近づく者は、男であれ女であれ死刑に処せられる、と法律の一条に定められております。ただ、王が金の笏を差し伸べられる場合にのみ、その者は死を免れます。三十日このかた私にはお召しがなく、王のもとには参っておりません。」
K	エゼキエル書	4:6 その期間が終わったら、次に右脇を下にして横たわり、ユダの家の罪を四十日間負わねばならない。 <u>各一年を一日として</u> 、それをあなたに課す。
K	ダニエル書	6:8 王国の大臣、執政官、総督、地方長官、側近ら一同相談いたしまして、王様に次のような、勅令による禁止事項をお定めいただきとうございました。すなわち、向こう三十日間、王様を差し置いて他の人間や神に願いをする者は、だれであれ獅子の洞窟に投げ込まれる、と。
K	ダニエル書	6:13 王の前に進み出、禁令を引き合いに出してこう言った。「王様、向こう三十日間、王様を差し置いて他の人間や神に願いをする者があれば、獅子の洞窟に投げ込まれるという勅令に署名をなさったのではございませんか。」王は答えた。「そのとおりだ。メディアとペルシアの法律は廃棄されることはない。」
K	ダニエル書	7:25 彼はいと高き方に敵対して語り／いと高き方の聖者らを悩ます。彼は時と法を変えようとたくらむ。聖者らは彼の手に渡され／一時期、二時期、半時期がたつ。
K	ダニエル書	12:7 すると、川の流れの上に立つ、あの麻の衣を着た人が、左右の手を天に差し伸べ、永遠に生きるお方によってこう誓うのが聞こえた。「一時期、二時期、そして半時期たって、聖なる民の力が全く打ち砕かれると、これらの事はすべて成就する。」
S	ヨハネの黙示録	11:3 わたしは、自分の二人の証人に粗布をまといさせ、千二百六十日の間、預言させよう。」
S	ヨハネの黙示録	12:6 女は荒れ野へ逃げ込んだ。そこには、この女が千二百六十日の間養われるように、神の用意された場所があった。
S	ヨハネの黙示録	12:14 しかし、女には大きな鷲の翼が二つ与えられた。荒れ野にある自分の場所へ飛んで行くためである。女はここで、蛇から逃れて、 <u>一年、その後二年、またその後半年の間、養われること</u> になっていた。

上記の聖句から、以下のことが理解できる。

①民数記 14 : 34、エゼキエル書 4 : 6 から、「一日＝一年（一年＝一日）」が理解できる。

②黙示録 12 : 6、12 : 14 から、「一月（ひと月）＝30日（一年＝360日）」が理解できる。

→黙示録のこの二つの聖句は同じ内容を記していることは、容易に理解できる。

ヨハネの黙示録 12 : 14 では、女が翼を与えられ、荒れ野へ逃げている期間を「一年、その後二年、またその後半年の間」と記し、同 12 : 6 では女が荒れ野へ逃げている期間を「千二百六十日」と記している。この二つの聖句から「一年、その後二年、またその後半年の間」と「千二百六十日」は、同じ期間であると理解できる。つまり、1260日＝1年＋2年＋半年＝3.5年＝12か月/年×3.5年＝42か月であるから、聖書における、「一月（ひと月）」は、30日（＝1260日÷42か月）である。

黙示録では、「四十二か月」（黙示録 11 : 2、13 : 5）は、悪人たちとの関連で、「千二百六十日」（同 11 : 3、12 : 6）は、神の民との関連で用いられている。

以上

【注意】ファイル No.173を開くには、次のパスワード(4桁半角数字)が必要になります。→【0500】

**【参考】メシアの再臨と千年王国の間にある「75日間」の準備期間**

ダニエル書 12:11~13 サタンが地上を荒らした足跡が一掃され、地上が清められるための準備期間  
 日ごとの供え物が廃止され、憎むべき荒廃をもたらすものが立てられて(→ダニエル書 11:31、大苦難  
 〈患難〉時代の後半、下図:AD508年)から、**千二百九十日**が定められている。  
 待ち望んで**千三百三十五日**に至る者は、まことに幸いである。終わりまでお前の道を行き、憩いに入り  
 なさい。  
 時の終わりにあたり、お前に定められている運命に従って、お前は立ち上がるであろう(→旧約聖書で復  
 活を語る数少ない聖句:イザヤ 26:19)。

- ① 大苦難(患難)時代の後半:3年半=12か月×3年半×30日/月=1260日
  - ② 1290日-1260日=30日・・・大苦難(患難)時代後、30日が準備期間としてある。
  - ③ 1335日-1290日=45日・・・更に45日が準備期間として用意されている。
- 従って、②③より、30日+45日=75日(=1335日-1260日)の期間が用意されていることになる。つまり、これは千年王国が出来上がるために必要な準備期間である。

その75日間に行われることは、次のようなことである。

- ・キリストは、ダビデの王座に就いて統治される(黙示録 19:6 ダビデの王座の確立)。  
 →ダビデの契約の成就:ナタンの預言(サムエル記下 7:12~13、歴代誌上 17:10~14)
- ・小羊の婚宴が開かれる(黙示録 19:7~9)。
- ・反キリストと偽預言者が硫黄の燃えている「火の池」に投げ込まれる(黙示録 19:20、20:14)。
- ・サタンが「底なしの淵」(アビス)に閉じ込められる(黙示録 20:2~3)。  
 →⑥サタンが「火の池」に投げ込まれるのは、千年期が終わってからである(黙示録 20:10)。
- ・旧約時代の聖徒たちと、大苦難(患難)時代の殉教者たちが復活する(ダニエル書 12:2、黙示録 20:4)。
- ・大苦難(患難)時代に生き延びた異邦人が裁かれる(黙示録 11:18、20:17、21)。

これらのことが75日間にすべて行われて、千年王国が確立する。

